

3. 大豆品種「あきまろ」の奨励品種採用

1. 背景とねらい

本県の大豆栽培は、播種適期が梅雨にあたるため、湿害による出芽不良や初期生育不良により収量・品質が安定しにくくなっています。また、主要品種「サチユタカ」を梅雨明け後に播種すると、生育量が確保できず、コンバイン収穫適性も低下するため低収となります。そこで、晩播しても収量が安定する品種の選定を進め、2011年に近畿中国四国農業研究センターで育成された「あきまろ」を新しく奨励品種として採用します。

2. 成果の内容

農業技術センターにおいて、「サチユタカ」と比較した特性は以下のとおりです。

- 1) 開花期は2日、成熟期は11日遅い晩生品種です(表1)。
- 2) 主茎長が長く、やや倒伏しやすいですが、最下着莢位置が20cm程度と高いことから、コンバイン収穫適性が優れます。青立ち発生は同程度です(表1)。
- 3) 子実収量は8%多く、裂皮粒、しわ粒等の発生が少なく、等級が優れます(表1)。
- 4) 子実の蛋白質含有率がやや低く、豆腐の収率はやや劣りますが、食味は良好です。味噌加工適性に優れます。
- 5) 7月中旬播種では、栽植本数を20本/m²程度とすることで、倒伏程度を抑えながら収量を確保できます(図1)。
- 6) 「あきまろ」の栽培基準は表2に示すとおりです。

3. 利用上の留意点

- 1) 栽培適地は標高300m以下の地帯ですが、降雪が早い地域は収穫ができなくなる可能性があるため適しません。
- 2) 「サチユタカ」に比べて、耐倒伏性がやや劣ることから、播種時期に応じて播種量を調整します。
- 3) 紫斑病抵抗性は「サチユタカ」並みの「やや強」であり、基幹防除の徹底が必要です。

(栽培技術研究部)

4. 具体的データ

表 1 6 月中旬播種における生育，収量および品質（2004～2013 年）

品種名	開花期 (月・日)	成熟期 (月・日)	主茎長 (cm)	最下着莢高 (cm)	倒伏 ¹⁾ 程度 (0-4)	青立 ²⁾ 株率 (%)	全重 (kg/a)	子実 ³⁾ 重 (kg/a)	同左 比率 (%)	百粒 重 (g)	裂皮 粒率 (%)	しわ 粒率 (%)	等級 ⁴⁾	粗蛋白質 ⁵⁾ 含有率 (%/d. w.)
あきまろ	8.03	11.02	71	21	1.6	7	88	45	108	33.2	0	1	1等上	43.0
サチユタカ	8.01	10.22	52	14	0.9	4	72	41	100	34.9	1	3	1等中	45.4
アキシロメ	8.02	10.24	59	12	1.5	6	74	38	88	31.7	4	2	1等下	43.1

注1) 倒伏程度は0（無）～4（甚）の5段階評価。

2) 青立ち株率は「サイズ個体における成熟整合性の簡易判別法」（古谷ら，1993，日作紀62）における成熟整合性程度1および2の株の合計発生率。

3) 子実重は6.7mmのふるいで選別後の重量。子実重および百粒重は15%水分換算値。

4) 等級は1上：1～規格外：7の7段階評価による。

5) 粗蛋白質含有率は、近畿中国四国農業研究センター大豆育種研究室における近赤外分光分析機（FOSS TECATOR Infratec1241）による分析結果による。

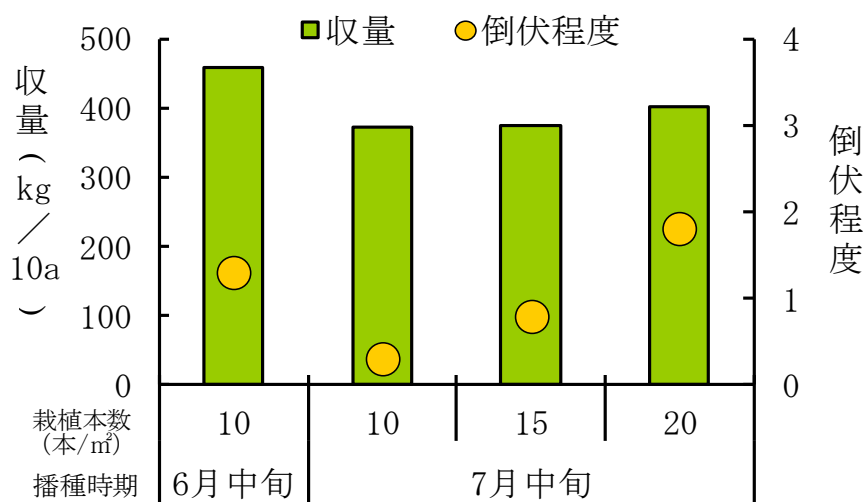


図 1 栽植本数が収量および倒伏程度に及ぼす影響（2009 年）

表 2 大豆「あきまろ」の栽培基準

播種時期	播種量 (kg/10a)	m ² 当 たり 株数	株間 (cm)	
			慣行畦幅 65～70cm	狭畦 30～35cm
6月中旬～ 6月下旬	6	8	18	—
6月下旬～ 7月上旬	6.8	9	16	32
7月上旬～ 7月中旬	7.5	10	14	28
7月中旬～ 7月下旬	9	12	12	23

注1) 百粒重30g，1株2粒播き，苗立率80%として算出した。

2) 栽培適地は標高300m以下。